

緑茶の香りでがん患者の心を癒す

[背景・目的]

がん患者は患部からの分泌物等により、特有の病臭が発生し、本人が不快に感じるだけでなく、面会者等、周辺への影響を気にして大きなストレスを感じています。これまで静岡がんセンター研究所とファルマバレーセンターでは、緑茶の蒸留液を利用して、病臭を抑えて患者が抱えるストレスを緩和する研究を行ってきました。しかし、実用化には低コスト化と大規模に生産した際の品質の安定化等の課題がありました。そこで本研究では、実用化に向けた最適な原材料の選定及び加工法の開発を行い、緑茶蒸留液の品質の安定化につながる芳香成分の分析とその経済性、がんの病臭に対する抑制効果の検証を行いました。

[研究成果]

- ・ 原材料として2種類の茎茶を選抜しました。選抜した緑茶はいずれも当初に使用していた「かりがね」という品種のものより低価格で、香りについてもより高い評価を得ました。
- ・ 良い香りの濃厚な蒸留液を採取できる製法を開発しました。
- ・ 緑茶の蒸留液にはがん病臭の原因物質であるノナナール（革製品のようなにおい）やジメチルトリスルフィド（たまねぎやたくあんのようなにおい）等の硫黄化合物を低減させる効果があることが明らかになりました。

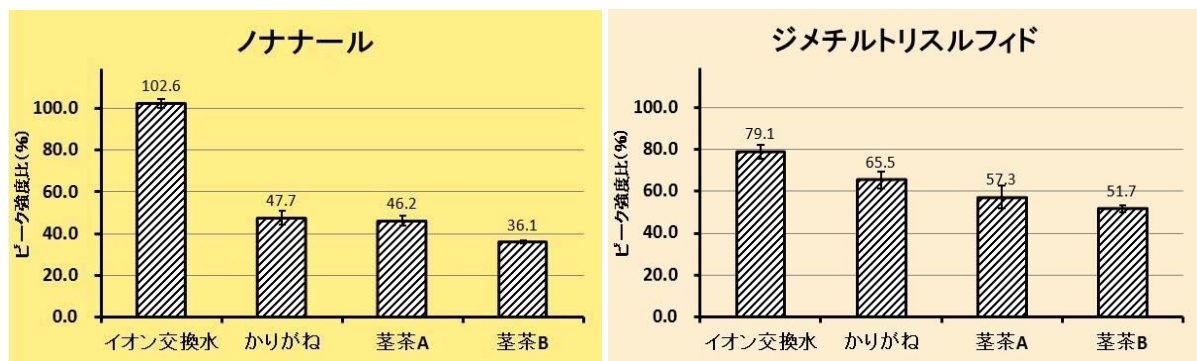


図 緑茶蒸留液のがん病臭原因物質抑制効果 (n=5, 平均値±標準偏差)

[研究成果の普及・技術移転の計画]

今後は、研究成果を元に（株）万城食品が緑茶蒸留液を製造し、静岡がんセンターで使用する他、他の医療機関等で使用していただけるよう、普及に努めていきます。

また、利用拡大のため、医療機関だけでなく一般の方にも利用していただけるような緑茶蒸留液を活用した新商品の開発を検討していきます。